

[成果情報名] ハウスミカンにおける近紫外線カットフィルムによるアザミウマ類被害軽減

[要約] 近紫外線カットフィルムをハウスミカンの屋根に使用するとアザミウマ類のハウス内への誘殺数、果実の被害ともに紫外線カット効果のないポリフィルムに比べ低く抑えることができる。

[キーワード] ハウスミカン、近紫外線カットフィルム、アザミウマ類

[担当] 長崎果樹試・病害虫科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール t.miyazaki@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹（病害虫）

[分類] 指導

[背景・ねらい]

ハウスミカンを加害するアザミウマ類は薬剤のみの防除では多数回の散布が必要になる。そこで、近紫外線カットフィルムによる被害軽減効果を確認する。

[成果の内容・特徴]

- 1．近紫外線カットフィルムをハウスの屋根に使用するとアザミウマ類の誘殺数は近紫外線カット効果のないポリフィルムを使用したハウスより低く抑えることができる（表1）。
- 2．近紫外線カットフィルムはアザミウマ類による被害果率、被害度とも低く抑えることができる（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．アザミウマ類の多発生時の効果は未確認であり、粘着シート等で発生状況をみながらハウス内での薬剤散布を追加する必要がある。
- 2．試験実施ハウスではサイドネットに1mm目のものを使用している。
- 3．果実の着色への影響は肉眼観察では近紫外線カットフィルムと慣行ビニールの差はない。
- 4．ハウス内外で確認されたアザミウマの種類は主にミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマである。

[具体的データ]

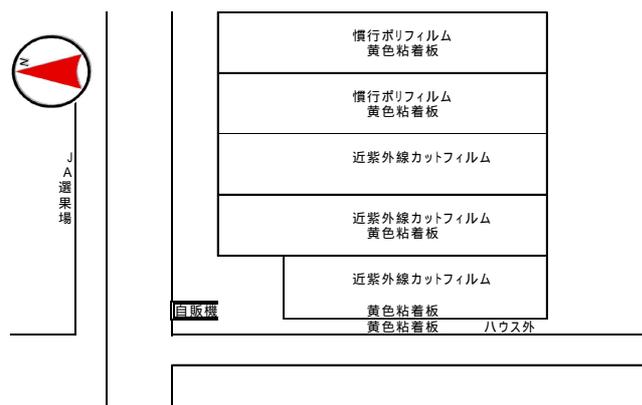


図1 試験区の概要

表1 各種資材の違いがアザミウマ類の侵入に及ぼす影響

区 制	黄色粘着板による誘殺数										
	4.28	5.7	5.20	5.28	6.10	6.18	6.30	7.9	7.17	7.28	計
近紫外線カットフィルム区	4.0	0.5	2.5	1.0	1.0	0	0	0	0.5	1.5	11.0
慣行ポリフィルム区	3.5	3.5	0.5	2.0	4.0	0.5	4.0	0.5	0	2.0	20.5
ハウス外	6	5	24	21	35	13	13	5	1	3	126.0

表2 各種資材の違いがアザミウマ類のハウスミカン果実被害に及ぼす影響

区 制	4.28		5.20		6.18		7.17		7.23	
	被害果率	被害度								
近紫外線カットフィルム区	0	0	0	0	0	0	11.0	2.1	6.0	1.0
慣行ポリフィルム区	0	0	0	0	0	0	19.3	3.5	22.0	3.9

参考 各種設置資材の違いがアザミウマ類のハウス内への侵入に及ぼす影響
(2003年 佐賀県試)

		5.30	6.13	6.26	7.3	7.17	期間計
		近紫外線カットフィルム区	1	61	82	47	9
	ハウス外捕獲数	0	0	1	0	0	1
	ハウス内捕獲数1m	0	0	1	0	0	1
	ハウス内捕獲数2m	0	0	1	0	0	1
	侵入阻止率(%)	100	100	98	100	100	100
	2	22	15	19	4	7	67
	ハウス外捕獲数	0	0	0	0	0	0
	ハウス内捕獲数1m	0	1	0	1	0	2
	ハウス内捕獲数2m	0	1	0	1	0	2
	侵入阻止率(%)	100	97	100	88	100	99
慣行ポリフィルム区	1	39	43	22	8	-	112
	ハウス外捕獲数	0	2	4	0	-	6
	ハウス内捕獲数1m	0	4	1	1	-	6
	ハウス内捕獲数2m	0	4	1	1	-	6
	侵入阻止率(%)	100	93	89	94	-	95
	2	22	15	19	4	-	60
	ハウス外捕獲数	7	2	2	0	-	11
	ハウス内捕獲数1m	1	1	0	1	-	3
	ハウス内捕獲数2m	1	1	0	1	-	3
	侵入阻止率(%)	82	90	95	88	-	88

[その他]

研究課題名：果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査

予算区分：県単

研究期間：平成15年度（昭和58～）

研究担当者：宮崎俊英、早田栄一郎